

# 高知県感染症発生動向調査（月報）

2023年5月

高知県感染症情報センター

高知県衛生環境研究所

TEL:088-821-4961 FAX:088-825-2869

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/>

E-mail: 130120@ken.pref.kochi.lg.jp

## 全国情報

第18週（5月1日～）から第21週（～5月28日）までの4週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。全国における上位6疾患の合計は50.82で4月の36.02と比べて増加した。過去10年間の同時期としては3番目に多い数でコロナ前のレベルに戻った。5月8日から新型コロナウイルス感染症が感染症法の2類疾患から5類疾患に変更されて定点報告の疾患となったが、さっそく第2位の感染症として登場し、増加の一因となった。新型コロナウイルス感染症患者の実数把握は行わず、増減などのトレンドを追跡していく方針になった。感染性胃腸炎と初夏の感染症であるヘルパンギーナも増加した。

3シーズンぶりに流行したインフルエンザは、3月に減少に転じた後は、ただらだと流行が続いている。同時期を過去10年間で比較すると新型コロナ流行が始まった2020年以降では最多だったが、コロナ前と比べると少ない。

1位は感染性胃腸炎で21.79（4月1位17.83）と増加した。2位は定点疾患に初めて登場した新型コロナウイルス感染症で9.82であった。3位はインフルエンザで6.57（4月2位9.68）と減少した。4位以下はそれぞれ4月よりも増加した。4位はRSウイルス感染症で5.54（同3位3.60）、5位はA群溶血性レンサ球菌で4.43（同4位2.71）、6位はヘルパンギーナで2.67（同8位0.89）であった。

〈全国の新型コロナウイルス感染症 COVID-19〉

図1に2022年10月24日以降に全国の定点医療機関から報告された患者数を示す。第18週は1.80、第19週2.63、第20週は3.55、第21週3.63、第22週4.55と徐々に増加している。

表1 各週定点当たり報告数（全国）

No	疾病名	週	18週	19週	20週	21週	計
1	感 染 性 胃 腸 炎		3.49	5.28	6.54	6.48	21.79
2	新 型 コ ロ ナ ウ イ ル ス 感 染 症		-	2.63	3.56	3.63	9.82
3	イ ン フ ル エ ン ザ		1.70	1.36	1.89	1.62	6.57
4	R S ウ イ ル ス 感 染 症		0.99	1.04	1.56	1.95	5.54
5	A 群 溶 血 性 レ ン サ 球 菌 咽 頭 炎		0.59	1.01	1.34	1.49	4.43
6	ヘ ル パ ン ギ ー ナ		0.28	0.33	0.73	1.33	2.67

## 県内情報

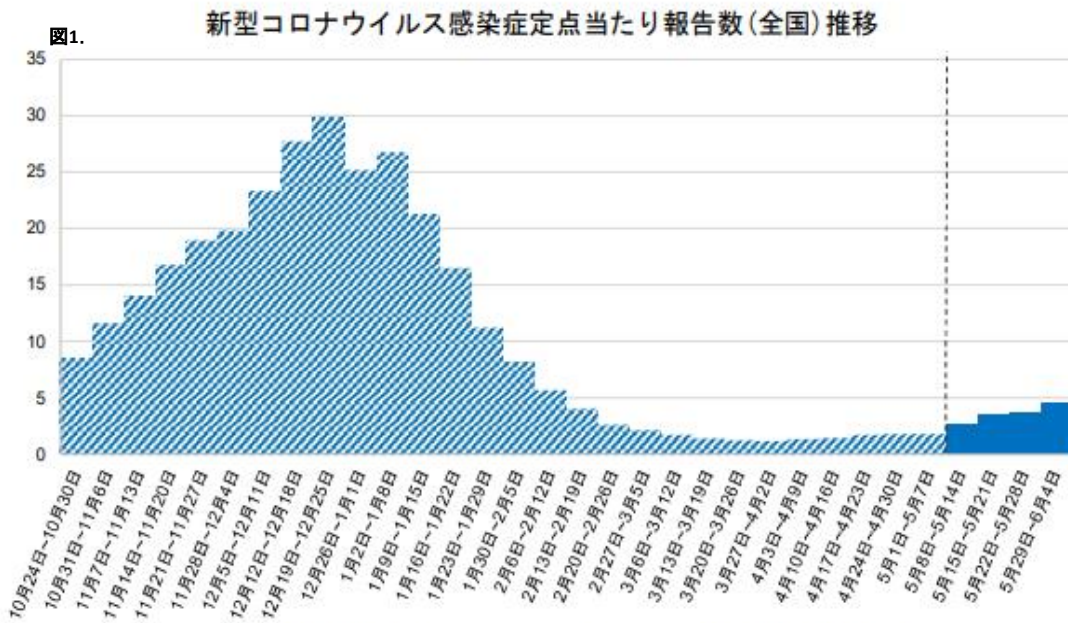
### 1. 全国との対比（定点当たり報告数）

上位6疾患の報告数は31.20（4月26.50）と増加したが、全国よりも少なかった（表2）。増加の原因は新型コロナウイルス感染症が定点報告疾患に加えられたことと感染性胃腸炎の増加である。インフルエンザの流行は、全国に比べると大きいものではないが、ただらだと続いている。同時期としては、コロナ前と比べると最少であった。

高知県における5月の上位6疾患は次のとおりである。1位は感染性胃腸炎で11.31（同2位7.41）と増加したが全国よりも少なかった。2位はヘルパンギーナで5.71（同3位5.49）と横ばいであったが全国よりも多かった。3位はインフルエンザで5.16（同1位10.04）と半減し全国よりも少なかった。4位が新型コロナウイルス感染症で4.77であった。増減について正確な評価は困難であるが、図2に示すように推測は可能である。5位はRSウイルス感染症で2.22（同4位1.92）、6位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で2.03（同6位0.75）といずれも増加したが全国よりも少なかった。

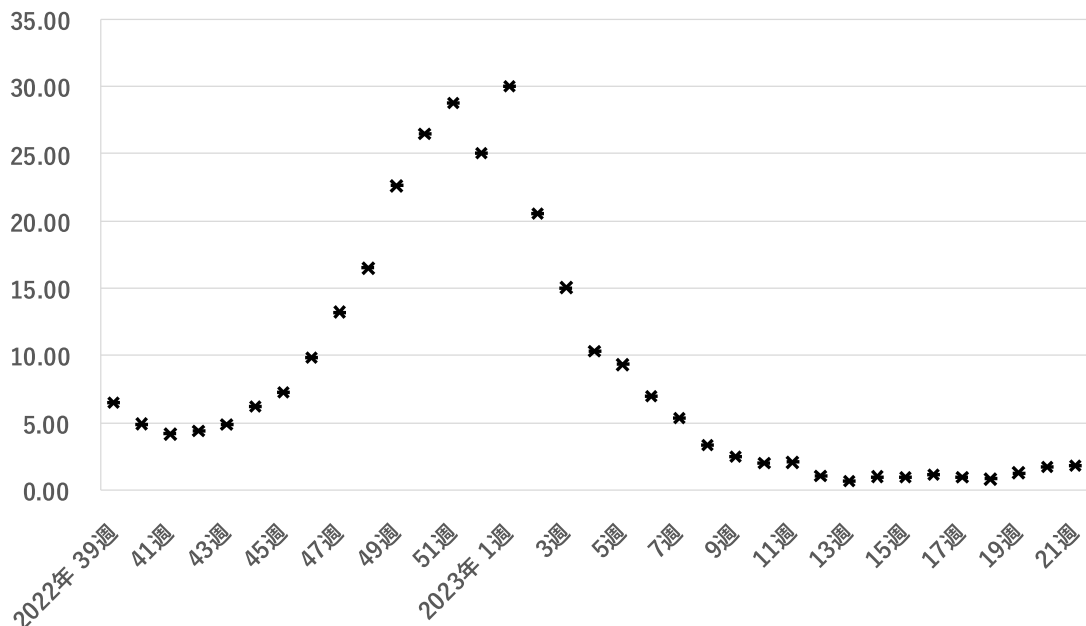
表2 各週定点当たり報告数（高知県）

No	疾病名	週	18週	19週	20週	21週	計
1	感 染 性 胃 腸 炎		2.00	2.00	3.46	3.85	11.31
2	ヘルパンギーナ		1.67	0.88	1.54	1.62	5.71
3	インフルエンザ		1.16	0.95	0.98	2.07	5.16
4	新型コロナウイルス感染症		-	1.27	1.70	1.80	4.77
5	RSウイルス感染症		0.26	0.27	1.04	0.65	2.22
6	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.19	0.15	0.65	1.04	2.03



※5月7日以前の数値は、HER-SYSデータに基づく定点医療機関からの患者数(参考値)  
一部の都道府県については、都道府県の集計に基づく。

図2. 高知県での新型コロナウイルス感染症 定点報告数



## 2. 全体の傾向

麻しん、風しんの報告無し。4月28日に茨城県から、5月12日に東京都から、麻しん患者の発生について報道発表があった。疫学調査により、東京都の患者は茨城県の患者との接触歴（同じ公共交通機関を利用）が確認された。これと相まって、第19週～22週にかけて麻しん患者合計10名が報告された。流行が危惧されており、麻しんワクチンの徹底が叫ばれている。

## 3. 主な疾患の発生状況

### 1) インフルエンザ

報告数 228名（4月 452名）。統計がある1998年以降で初めて、2020/21と2021/22シーズンは流行がなく、2022/23シーズンは3年ぶりの流行となった。今季の流行規模は過去10年では8番目、コロナ前と比べて最少で大きな流行とはいえない。だらだらと流行が続くことが今季の特徴で、5月になっても収束していない。県下全域から報告されており、高知市、安芸、幡多がとくに多かった。AH3 NTウイルスが1件検出された。今季検出された31件は全てAH3 NTであった。

### 2) 新型コロナウイルス感染症

報告数 210名（4月 -）。患者数の把握は実測から推測へと変化した。パンデミック当初は医療機関から全数が報告されたが、2022年9月26日から軽症患者については患者本人による自己申告制となった。2023年5月8日から5類疾患に変更され、全数報告をやめ、定点医療機関からの報告にかわった。図2は2022年39週（10月）以降の定点機関からの報告数を後方視的に集計したものである。2022年末に患者数のピークをみとめ、2023年の年始以降は減少した。4月以降は横ばいとなっていたが、5月になって漸増してはいるが大きな増加には至っていない。第19週の高知県は全国都道府県のなかで最少であり、第20～21週も少ない数字で推移した。

2月20日以降に県下でウイルス株の検討はなされていない。東京ではオミクロン株の亜型XBB1.16が流行の主流となっている。

### 3) 咽頭結膜熱

報告数 27名（4月 9名）。少ない数で推移している。須崎、中央東＝幡多、中央西、高知市から表記の順に多く報告された。ヘルパンギーナと診断された患者からAdenovirus 2型が1件、その他の診断の患者からAdenovirus 5型が1件検出された。

### 4) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 53名（4月 20名）。増加したが、同時期で比べるとコロナ前の報告数よりも少ない。幡多、高知市、須崎から報告された。細菌は検出されていない。

### 5) 感染性胃腸炎

報告数 296名（4月 200名）。同時期で比べるとコロナ前よりも少ない。県下全域から報告され、幡多、高知市、中央東がとくに多かった。病原体は検出されていない。

### 6) 水痘

報告数 11名（4月 7名）。少ない数で推移しているのはワクチン定期化の効果であろう。中央東、高知市、安芸＝中央西から報告された。

### 7) 手足口病

報告数 11名（4月 19名）。例年は5-6月に流行が始まるが、2022年は遅れて8月に流行が始まり、だらだらと続いているが流行規模は大きくない。中央西、高知市、中央東、幡多から報告された。1月以降に手足口病の患者からCoxsackievirus A6が5件、ヘルパンギーナの診断の患者から同ウイルスが1件、その他の診断の患者から同ウイルスが2件検出されており、今季の流行株である。

### 8) 伝染性紅斑

報告数 3名（3月 3名）。2020年9月以降は一桁の少ない報告数が続いている。須崎、中央東、高知市から各1名報告された。

### 9) 突発性発疹

報告数 42（4月 20名）。増加したが想定内の変動である。

10) ヘルパンギーナ

報告数 150名（4月 148名）。2022年は8月から流行が始まったが規模は小さく、過去10年間で最も小さな流行だった。今年は3月から流行があり例年よりも早く始まったが大きな流行ではない。県下全域から報告され、中央西、高知市、幡多からとくに多く報告された。ヘルパンギーナの臨床診断の患者から、Cosackievirus A2が1件検出された。

11) 流行性耳下腺炎

報告数 2名（4月 1名）。2020年10月から2022年1月まで同時期として過去10年で最少が続き、さらに、2022年7月～2023年2月も最少の報告数が続き、5月も最少だった。幡多と高知市から各1名が報告された。

12) RSウイルス感染症

報告数 58名（4月 52名）。新型コロナ流行中の2021年は夏の大流行となり、10月に終息した。2022年は、7月から流行が始まり前年に比べると緩やかに増加し、11月に減少に転じたが、その後は30～50名台で推移している。安芸以外から報告があり、中央西と高知市がとくに多かった。ウイルスは検出されていない。

13) 流行性角結膜炎

報告数 1名（4月 1名）。2019年以降は一桁の報告数で推移している。

14) 細菌性髄膜炎（基幹定点の報告疾患）

報告数 1名（4月 1名）。70歳以上の患者が高知市から報告された。従来は年間10名前後の報告数で推移していたが、2017年6名、2018年5名、2019年2名、2020年4名、2021年6名、2022年6名、2023年3名と少数で推移している。

15) 無菌性髄膜炎（基幹定点の報告疾患）

報告数 0名（4月 0名）。従来は年間20～30名台の報告数で推移していたが、2017年7名、2018年1名、2019年5名、2020年2名、2021年も3名、2022年は1名で、2023年は今のところ報告がない。

16) マイコプラズマ肺炎（基幹定点の報告疾患）

報告数 1名（4月 7名）。高知市から1名が報告された。

基幹定点の月報疾患

17) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 20名（4月 13名）。大きな変動はない。高知市と中央東から報告された。

18) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

報告数 0名（4月 0名）。2015年以降は、年間0～2名の報告にとどまっている。

高知県感染症発生動向調査部会  
前田 明彦

## 高知県における月別全数報告疾患（令和5年5月）

類型	病名	報告月					総計
		1月	2月	3月	4月	5月	
2	結核	3	4	5	3	6	21
4	サル痘			1			1
	重症熱性血小板減少症候群	1	1	1	2	1	6
	日本紅斑熱				4	2	6
5	アメーバ赤痢	1					1
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1		1		1	3
	後天性免疫不全症候群				1		1
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1		1		1	3
	侵襲性肺炎球菌感染症	1		5		1	7
	水痘（入院例に限る）	1					1
	播種性クリプトコッカス症			1			1
	梅毒	5	3	5	9	8	30
	百日咳					2	2
総計		14	8	20	19	22	83

# 高知県感染症情報 月報(61定点医療機関)

2023年

5月

定点名	疾病名	保健所						計	前月	前年同月
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多			
内科・COVID-19	インフルエンザ	24	26	116	15	8	39	228	452	
	新型コロナウイルス感染症	19	32	91	24	19	25	210		
小児科	咽頭結膜熱		9	3	1	7	7	27	9	34
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			30		4	19	53	20	23
	感染性胃腸炎	11	71	104	10	11	89	296	200	247
	水痘	1	4	5	1			11	7	7
	手足口病		3	5	2		1	11	19	5
	伝染性紅斑		1	1		1		3	3	1
	突発性発疹	1	13	21		6	1	42	20	49
	ヘルパンギーナ	1	10	68	28	7	36	150	148	3
	流行性耳下腺炎			1			1	2	1	2
	RSウイルス感染症		3	35	8	4	8	58	52	3
眼科	急性出血性結膜炎									
	流行性角結膜炎			1				1	1	
STD	性器クラミジア感染症		1	6				7	8	2
	性器ヘルペスウイルス感染症									
	尖圭コンジローマ									
	淋菌感染症			1				1	1	1
基幹	細菌性髄膜炎			1				1	1	
	無菌性髄膜炎									
	マイコプラズマ肺炎			1				1	7	1
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)									
	感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る)									
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		2	18				20	13	26
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症									
	薬剤耐性緑膿菌感染症			1				1		
計		57	175	509	89	67	226	1,123	962	404
前月		23	109	381	74	44	331			
前年同月		30	50	167	47	31	79			
小児科定点数		2	6	9	2	2	5			

## 高知県感染症情報 月報(61定点医療機関)

2023年

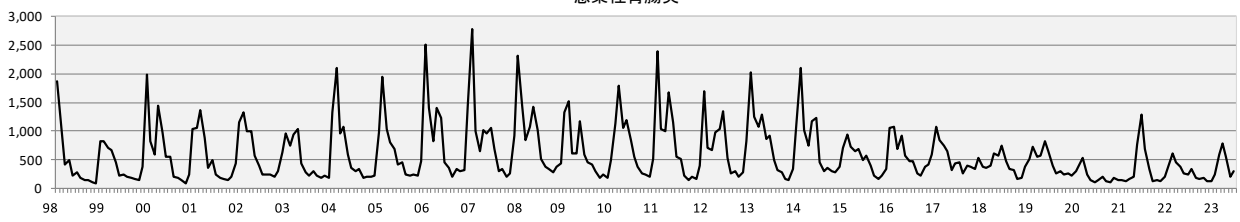
5月

定点当たりの人数

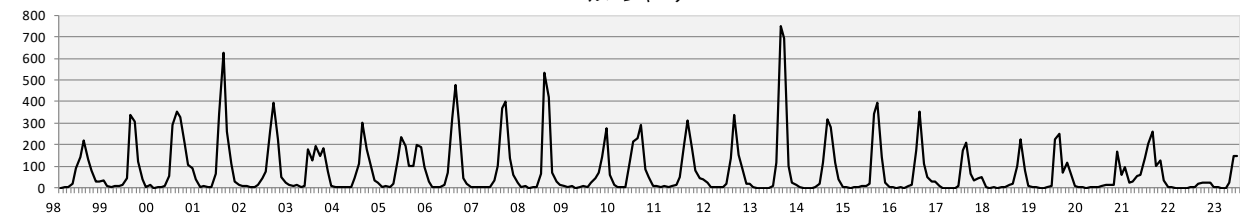
定点名	疾病名	保健所						計	前月	前年同月
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多			
内科・COVID-19	インフルエンザ	6.00	2.59	8.29	3.75	2.00	4.89	5.16	10.04	
	新型コロナウイルス感染症	4.75	3.20	6.50	6.00	4.75	3.13	4.77		
小児科	咽頭結膜熱		1.40	0.33	0.50	3.50	1.40	1.03	0.33	1.22
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			3.32		2.00	3.80	2.03	0.75	0.82
	感染性胃腸炎	5.50	11.47	11.55	5.00	5.50	17.80	11.31	7.41	8.82
	水痘	0.50	0.60	0.55	0.50			0.42	0.26	0.25
	手足口病		0.48	0.55	1.00		0.20	0.42	0.71	0.18
	伝染性紅斑		0.17	0.11		0.50		0.12	0.11	0.04
	突発性発疹	0.50	2.12	2.33		3.00	0.20	1.61	0.74	1.74
	ヘルパンギーナ	0.50	1.63	7.56	14.00	3.50	7.20	5.71	5.49	0.11
	流行性耳下腺炎			0.11			0.20	0.08	0.04	0.08
	RSウイルス感染症		0.51	3.89	4.00	2.00	1.60	2.22	1.92	0.11
眼科	急性出血性結膜炎									
	流行性角結膜炎			1.00				0.33	0.33	
STD	性器クラミジア感染症		0.50	3.00				1.17	1.33	0.33
	性器ヘルペスウイルス感染症									
	尖圭コンジローマ									
	淋菌感染症			0.50				0.17	0.17	0.17
基幹	細菌性髄膜炎			0.20				0.13	0.13	
	無菌性髄膜炎									
	マイコプラズマ肺炎			0.20				0.13	0.89	0.13
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)									
	感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る)									
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		2.00	3.60				2.50	1.63	3.25
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 薬剤耐性緑膿菌感染症			0.20				0.13		
小児科定点分計		17.75	24.17	45.09	34.75	26.75	40.42	34.88	27.80	13.37
前月		10.25	13.59	34.55	29.25	18.75	46.96			
前年同月		14.00	7.14	15.86	15.66	15.50	15.00			

# 注目される疾患別月別推移

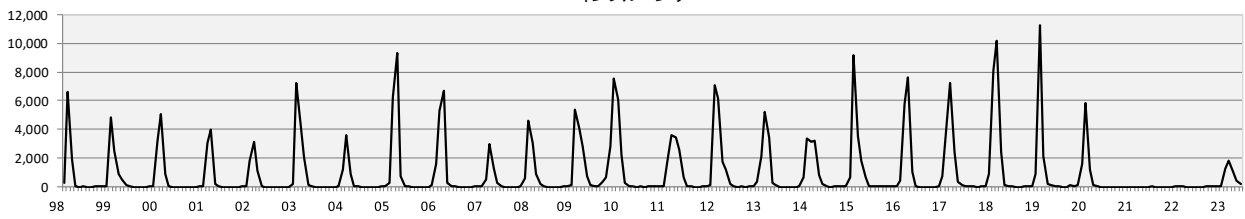
## 感染性胃腸炎



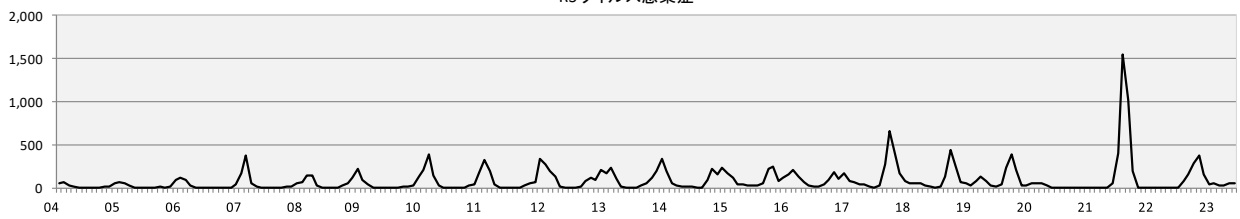
## ヘルパンギーナ



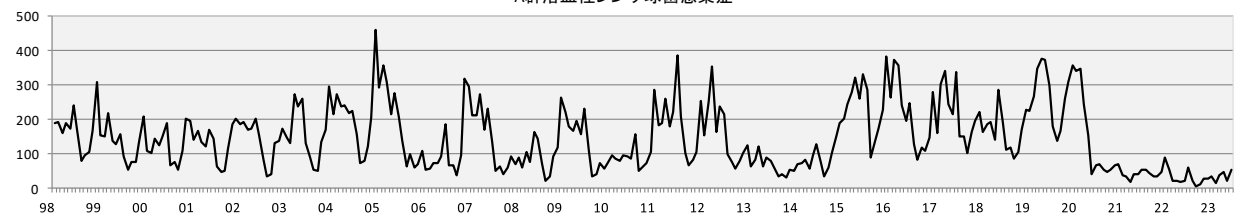
## インフルエンザ



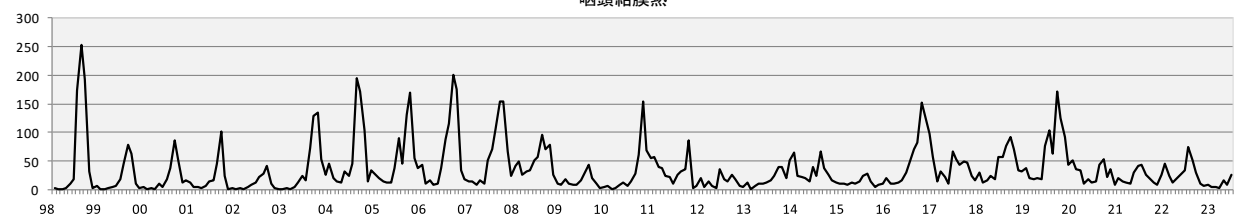
## RSウイルス感染症



## A群溶血性レンサ球菌感染症



## 咽頭結膜熱





## 高知県感染症情報(月報)

2023年5月

## 検査情報

## ウイルス、細菌の分離状況

令和5年4月はウイルス45件の搬入があり、そのうちウイルス15件の病原体を検出し、4月に搬入された検体からウイルス1件を検出した。検出ウイルスの内訳は、Adenovirus 2 1件、Adenovirus 5 1件、Coxsackievirus A2 4件、Cytomegalovirus 1件、Human herpes virus 6 2件、Human herpes virus 7 1件、Influenza virus A H3 NT 1件、Parainfluenza 3 1件、Rhinovirus 4件であった。

## ウイルス、細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス、細菌の検出
1	1	女	ヘルパンギーナ	41℃,口内炎,	ぬぐい液	4/17	Rhinovirus
2	9か月	男	肺炎	40℃,咳嗽,肺炎,	吸引鼻汁	4/20	Rhinovirus
3	1	女	急性発疹症	38℃,咳嗽,発疹,	ぬぐい液	5/2	Parainfluenza virus 3
4	5	男	伝染性紅斑	39℃,発疹,	ぬぐい液	5/12	Human herpes virus 6
5	1	男	-	39℃,上気道炎,発疹,	ぬぐい液	5/15	Adenovirus 5 Cytomegalovirus
6	2	女	不明熱	40℃,嘔吐,咳嗽,	ぬぐい液	5/15	Coxsackievirus A2
7	2	女	インフルエンザ	40℃,上気道炎,	ぬぐい液	5/15	Coxsackievirus A2
8	4	男	インフルエンザ様疾患	40℃,咳嗽,	ぬぐい液	5/15	Coxsackievirus A2
9	8か月	男	不明発疹症	41℃,下痢,咳嗽,発疹,	ぬぐい液	5/17	Rhinovirus
10	4か月	男	ウイルス性肺炎	39℃,咳嗽,肺炎,	鼻咽腔ぬぐい液	5/19	Rhinovirus
11	1	女	ヘルパンギーナ	40℃,	ぬぐい液	5/22	Adenovirus 2 Coxsackievirus A2
12	15	女	インフルエンザ	41℃,咳嗽,	ぬぐい液	5/26	Influenza virus A H3 NT
13	1	女	不明発疹症	41℃,咳嗽,	ぬぐい液	5/29	Human herpes virus 6
14	10	男	-	38℃,発疹,	ぬぐい液	5/29	Human herpes virus 7

病原体検出状況

臨床診断名	病原微生物	2023年					2023 年総
		1月	2月	3月	4月	5月	
インフルエンザ	Influenza virus A H3 NT	10	6	9	5	1	31
	Coxsackievirus A2					1	1
	計	10	6	9	5	2	32
感染性胃腸炎	Adenovirus 6				1		1
	Adenovirus 41		1				1
	Norovirus GII NT	3	11				14
	計	3	12		1		16
水痘	Human herpes virus 6				1		1
	計				1		1
手足口病	Coxsackievirus A6	1		3	1		5
	Herpes simplex virus 1				1		1
	Human herpes virus 7		1		1		2
	Rhinovirus				1		1
	計	1	1	3	4		9
伝染性紅斑	Epstein-Barr virus			1			1
	Human herpes virus 6					1	1
	計			1		1	2
ヘルパンギーナ	Adenovirus 2					1	1
	Coxsackievirus A2				1	1	2
	Coxsackievirus A6				1		1
	Cytomegalovirus				1		1
	Rhinovirus				1		1
	計				4	2	6
その他	Adenovirus 1			1			1
	Adenovirus 5					1	1
	Adenovirus 41	1					1
	Coxsackievirus A2				3	2	5
	Coxsackievirus A6			1	1		2
	Coxsackievirus B5			1			1
	Cytomegalovirus				1	1	2
	Human herpes virus 6			3	1	1	5
	Human herpes virus 7		1	2		1	4
	Influenza virus A H3 NT	1					1
	Norovirus GII NT	2	1	1			4
	Parainfluenza virus 3					1	1
	Respiratory syncytial virus A						0
	Respiratory syncytial virus B		1				1
	Rhinovirus		1	1	1	3	6
計	4	4	10	7	10	35	
総計		18	23	23	22	15	101

